

第1回 山科区基本計画策定委員会 摘録

- 1 日 時 平成21年8月6日(木) 午後1時～午後2時50分
- 2 場 所 京都市東部文化会館 1階 創造活動室
- 3 出席者 板倉委員, 梅本委員, 太田委員, 岡久委員, 奥田委員, 織田委員, 川嶋委員, 河村委員, 桑原委員, 幸田委員, 小山委員(代理出席), 佐治委員, 澤田委員, 朱委員, 高山委員, 竹之内委員, 田島委員, 谷川委員, 出竿委員, 羽立委員, 樋口委員(代理出席), 松本委員, 本島委員, 森委員, 山口好委員, 山口幸秀委員
- 4 内 容
 - 山科区基本計画策定委員の自己紹介
 - 座長及び副座長の指名
 - 議事(1) 山科区基本計画について
 - 議事(2) 意見交換
- 5 座長及び副座長の指名
 - (1) 座長の指名
要綱に基づいて区長が座長に織田委員を指名し, 全委員が承認した。
 - (2) 副座長の指名
要綱に基づいて織田座長が副座長に幸田委員を指名し, 全委員が承認した。
- 6 議事
 - (1) 山科区基本計画について
 - ア 山科区基本計画に係るこれまでの取組, 地域課題と意見募集の結果概要, 今後のスケジュールなどを事務局から説明した。
 - イ 委員会そのものや議事内容を公開することについて織田座長より提案があり, 全委員が承認した。
 - (2) 各委員からの意見要旨
 - ア まちづくり全般について
 - 財政難で新たな都市基盤等の開発が難しい中, 10年前と今とは課題が違うことを認識し, 修復・修正していくまちづくりへの転換が必要である。
 - 今回の計画の中で「住み続けたい」「帰ってきたい」という思いにつながる10年後のイメージ作りをし, それを共有できればと思う。山科はこういうところ, と語れるようにすることが必要。
 - 子どもが, このまちを好きだといってくれるようになるといいと思う。
 - 元気な人も, 商売をしている人も, お年寄りも, 子どもたちも, 皆が安心して生活できるまちづくりができればいい。
 - イ 区の魅力について
 - 山科区にも立派な資源があるが, 知名度が低い。山科ナスや文化遺産など, 地域固有の魅力や資源を更に周知する必要がある。

- 山科区の色んな魅力について学生はぜんぜん知らない。内外にもっと発信していきたい。
- 区の魅力について十分に評価されていない。

ウ 都市化による影響について

- 山科区は、昭和40～50年代に京都市の都市化が顕著に影響したまちだ。当時の人口想定に間違いがあったことで、住みにくいまちになった。
- 山科区にずっと暮らしており、山科区を大好きだと思ってきた。その後、マナーが悪い住民が増えたため、まちの印象が悪くなってきたと思う。
- 65年間、生まれて育ってきて思うが、どんどん住みにくくなってきている。

エ 地域のつながりについて

- マンション建設により、新たな住民が増えたが、町内会に加入しない人も多い。町内の連帯がなく、災害などの緊急時が心配である。また、町内の連帯が希薄になったため、地域のコミュニケーションが不足している。イベントなどにも「まず参加」を促し、新旧それぞれの住民、子ども、お年寄りなどのコミュニケーションをつくっていくことが重要だ。
- 人口は横ばいだが、所帯数が増え、高齢化が進み、孤独死などの問題が深刻である。

オ 子ども・子育てについて

- 昭和30年以前は住みたいまちであったものが、犯罪多発やポイ捨て問題が生まれた。元に戻るには、1世紀かかるだろう。
- 悪いことをする子どもが低年齢化している。子どもの教育を根本的に見直し、子どもの住みよい環境をつくることが大切である。

カ 道路・交通環境について

- 急激な開発のなかで、あぜ道を道路に変えていったりしたので、まともな道路がない。
- 区の周縁部の人口密度が高いので、バス交通の計画を見直して、地下鉄の駅までつないでほしい。
- 既存の道路や施設をいかに使いやすく安心・安全にしていくかが重要である。

キ その他

- 高齢者が交通事故や犯罪の被害者となることは多く、住民・団体等の意識、ネットワークや環境整備が重要だ。山科は、府下で1、2位の犯罪多発地域でもあり、何とかしていきたい。
- ごみ問題をはじめ、色々な面でマナーが悪い。

ク 計画の内容について

- まちづくりは、縦軸（時間軸）と横軸（横のつながり）がある。縦横織りなして10年計画をつくっていきたい。まちづくりのソフト面は、区民の仕事が大部分。昔から住む住民と新しい住民との理想の山科像は違うだろうが、同じ時代を生きる仲間として、10年間の計画を策定していきたい。